



(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

設立記念集会の開会にあたって (一九八七・六・二二)

三宅 泰雄

本日はお忙しい中を、多くの方にお集りいただき、厚く御礼申し上げます。顧りみれば、有志のものが、ここ松本楼に集まり、第五福竜丸保存委員会の結成について話し合ったのは、いまだから十八年前のことになります(一九六九・四・一〇)。そのとき発表されたのが、「被爆の証人、第五福竜丸、保存の訴え」でした。

第五福竜丸は被災後まもなく、政府に買い上げられ、その年(一九五四)の八月末には、はやくも東京水産大学に引きわたされていきました。その二年後に伊勢市の強力造船所で改装され、練習船「はやぶさ丸」となりました。その後、船齢二十年で廃船となり、東京都のゴミ捨場、夢の島に遺棄されました(一九六七年三月)。この船が第五福竜丸であることに都港湾局規制課が気づいたのは、十月になってからのことです。第五福竜丸の所在が分ったため、それ以来、保存運動が急速な上りを見せはじめました。

これをさらに広く社会に訴えたのが、朝日新聞「声欄」(一九六八・三・一〇)の「沈めてよいか第五福竜丸」と題する投書でした。これは当時二十六才の会社員・武藤宏一さんによるものです。投書では「第五福竜丸。それは私たちが日本人にとって忘れることのできない船。決して忘れてはいけないあかし」との力づよい呼びかけにはじまり、「第五福竜丸。もう一度、私たちはこの船の名を告げ合おう。そして忘れかけている私たちのあかしを取りもどそう。原爆ドームを守った私たちの力でこの船を守ろう。」と訴えています。

武藤さんはがんのため、五年前に惜しくも四十才の若さで亡くなりました。しかし、同君の功績は遺稿・追悼文集の序文にもあるように、「わが国の平和運動史上に消えることのない痕跡を残した。」といえるでしょう。夫人の眞澄さんは賛助会員として、いまま協会を助けて下さっています。

保存委員会が、東京都認可の財団法人「第五福竜丸保存平和協会」に発展してから(一九七三年十一月)、今年で十五年目になります。協会名に「平和」の二字を入れたのは、私の希望によるものでしたが、全員の賛成が得られませんでした。

美濃部知事は、そのころ「人類の未来のため」と題する所感の中で、次のように述べています。

「戦争放棄を明記した憲法をもつ日本国民は、世界の世論をリードする義務をもっていると考えます。第五福竜丸保存運動は、その義務を果すべき私たちの一歩であり、二歩であります。多くの国民の協力が寄せられ、この運動によって、わが国の平和運動が、より大きな力となることを、心から期待します。」美濃部さんは知事になる前には、東京教育大学で、私とはお互いに同僚の仲でした。その美濃部さんの力で、都立第五福竜丸展示館の設立がきまりましたので、協会名も「第五福竜丸平和協会」と改めました(一九七四年十月)。その展示館も、今年で開設十一周年となり、船体の大修理も完了。最近では全国各地から、年に十万人以上もの人を迎えるようになりました。

協会設立記念集會にあたり、協会の歴史の一端をのべ、開会のあいさついたします。

こんごとも、皆様方のいっそうのご支援、ご協力をお願いいたします。

(第五福竜丸平和協会会長)

平和随想 (五)

三宅 泰雄



ビキニ水爆被災事件が世界に与えた影響は深刻なものでした。ラッセル・アインシュタイン宣言なども、その一例です。

国内ではその年の十一月に日米放射能協議が東京で開かれました。ここではじめて、日米の科学者が放射能問題について、意見を交換することができたのです。松山副会長が組織の中心となって尽力されました。米国代表は主として原子力委員会(USABC)の科学者たちでした。このとき私は、俊鶴丸調査が明らかにした太平洋の大規模汚染について報告しました。これに驚いた米国は、その翌年早、沿岸警備隊の巡視船タニー号に科学者をのせ、俊鶴丸の測定結果の正しさを再確認したのでした(「トロール作戦」)。

一方、原水爆反対の声は、東京杉並の婦人のよびかけから、全国に拡がり、八月には原水爆禁止署名運動全国協議会を結成、年末までに早くも二十万名以上の署名を集めました。

これを背景に翌年八月に第一回原水爆禁止世界大会が開かれました。このときは鳩山首相が祝電を送るなど、まだ政党内はいたって希薄でした。全国から五千人、十四か国から五十三人の代表が参加しました。

同じ年の五月末に開かれた「放射能影響調査国際学術懇談会」も重要な催しでした。招集者は都築正男先生でした。はじめは医学者だけの会議とする考えでしたが、放射能影響は社会や環境にも及ぶことから、広い分野にまたがる会議となったのです。外国からは一人の著名な科学者が参加、当時としてはめずらしく、中国、ソ連、東独等の学者も来日しました。そのころは、つよい放射能雨がふりそそぎ、前年の秋からはソ連起源の放射能も到来していました。これに対し、ソ連を擁護する一派は、日本海の上空で、米国が死の灰をまいた等と猛宣伝をくりかえして

いました。

私は懇談会で環境放射能について報告し、ソ連起源の放射能雨についても言及しました。そのとき最も熱心に耳をかたむけていたのは、モスクワ放射線研究所のコズロワ女史と、東欧の学者たちでした。会議の報告書はウィーンで開かれた国際医師学会に報告されました。

ビキニ事件の影響の中でも、特筆すべきは国連の「原子力放射線の影響に関する科学委員会(UNSCEAR、通称、国連科学委員会)」の新設であつたろうと思えます。その頃の日本はまだ国連への加盟は認められず、ようやく一九五一年にユネスコ(国連教育科学文化機関、UNESCO)への加入が許されただけでした。一九五四年十一月、南米モンテヴィデオ市(ウルグアイ)での総会のさい、日本代表から「放射能に起因する障害」をユネスコの重要研究課題とするよう提案されました。この提案の重要性が認識され、翌年十一月の国連第十回総会で、国連科学委員会の新設が決議されたのです。日本は十五か国の代表の一員に加えられ、第一回会議(一九五

六年三月)には、都築正男、中泉正徳の両先生が出席されました。さらに国連内に事務局が新設され、田島英三さん(賛助会員)が科学官としてニューヨークに赴任しました。松山さんは初期の科学委には毎回出席し、私も一九六〇年と六二年に代表団の一員に加えられました。

ビキニ事件を契機として新設された公的機関には、日本学術会議「放射線影響調査特別委員会」、厚生省「原爆被害対策に関する調査研究連絡協議会」、文部省「放射線影響総合研究班」、原子力委員会「放射能調査専門部会」、科学技術庁「放射線医学総合研究所」などがあります。

都築先生を中心として、私たちが「日本放射線影響学会」を創立したのは、一九五九年七月のことでした。今は会員数も千人に近い学会に成長しています。

これらのことを回顧してきますと、ビキニ事件が世界に対し、いかに大きな衝撃であったかを、改めて痛感しないではられません。



ビキニの死・人間の死
 武政 博

ひとは
 どんな形で死を迎えるか
 あなたは
 切腹を待つ武士の気持といひ
 ビキニから
 三十三年と五日の
 被爆航をもって死を迎えた
 おれは

はりさける怒りと
 より打ちつける悲しみに
 一編の詩を書くが
 あなたの無念には遠くおよばない

ビキニの死は人間の死だ
 核を告発する人間の死だ
 だから おれは
 あなたにかわって
 人間の死を訴える
 人間の死を
 切腹という形にさせた

元・第五福竜丸機関長・
 山本忠司さん(60)は昭和62
 年3月6日・入院中の愛
 知県蒲郡市民病院にて死
 去。

第五福竜丸の乗組員とし
 て五人目の犠牲者となっ
 た。

六月二十二日(月)午後〇時半
 から、日比谷公園・松本楼で協会
 設立記念集会(パーティ・会費三
 千円)が開かれます。展示館の開
 設十一周年と協会設立十四周年を
 祝うもの。みなさんの御出席をお
 待ちします。

修学旅行生30校、船の郷里から
 「福竜丸が一番印象深かった」

「時代を映して修学旅行一世紀」
 ーの見出しに大きく福竜丸の写真。
 五月末A新聞の夕刊一面を占めら
 れたらうか。岐阜県の山奥か
 らはるばる訪ね、船を見あげた車
 イスの中学生の黒の制服が印象的
 な写真だった。貴重な時間を割い
 て、訪ねたい皆さんの施設の中
 で第五福竜丸がとりあげられるの
 は実にすばらしい。五月、展示館
 を訪れた中学校は30校。昨年にく
 らべ倍近くになった。江住・和
 深・潮岬・本宮・中芳養・三すみ
 ・長野・上芳養・田原・古座・南

先生の声がうれしかった。
 資料の提供に御協力を

六月七日、東京の小沢謙吉さん、
 宮地明男さんから原水爆に関する
 書籍多数が寄贈された。一九五四
 年当時の「アサヒグラフ」なども
 あり資料の収集に努力する協会に
 とってどれも貴重なもの。みな
 さんもぜひ御協力下さい。

武政博さんの二冊目のビキ
 ニ被爆詩集「骨にもなれない
 骨」(ふるさと紀行選書2)
 が六月一日発行された。序詩
 「海水のない造船所」ビキニ
 ほか、第五福竜丸の被爆・貨
 物船の被爆・船の被爆にわ
 けて二十四編が収録されてい
 る(千五百円・千二百五十円)。

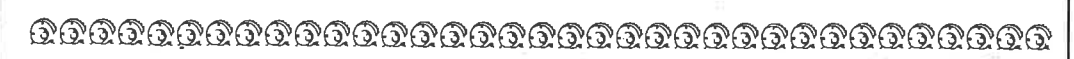
役員・評議員を選出
 協会の第77回理事会が五月二十
 一日、東京・神田の学士会館でひ
 らかれ、昭和61年度事業報告・同
 決算を承認するとともに、役員改選
 評議員選任を行ない、全員を再任
 した。氏名つぎのとおり(敬称略)。

●理事八名▽ 三宅泰雄(会
 長)、檜山義夫(副会長)、川崎
 昭一郎、斎藤鶴子、猿橋勝子、田
 沼肇、本多喜美。

●監事八名▽ 清水幹雄、松
 井康浩。

●評議員八十九名▽ 秋月辰一郎、
 伊東壮、石井あや子、内山尚三、
 小笠原英三郎、小川岩雄、小野周
 草野信男、庄野直美、関屋綾子、
 畑敏雄、服部学、福島要一、三井
 周二、森一久、森滝市郎、山川新
 二郎、山口勇子、吉田嘉清。

六月二十二日に「協会
 設立記念集会」



広島修学旅行と第五福竜丸

江口 保

第五福竜丸との少しばかりのかかわ
 りを持つようになったのは、私が一九
 七六年にヒロシマ修学旅行を試みるよ
 うになってからのことである。それま
 では「いつか行ってみよう」というだ
 けで時が過ぎるにまかせていた。
 一九七五年に岡山より西へ新幹線が
 延び、そのために時間が短縮されたこ
 とで、東京での公立中学校の七十二時間
 という修学旅行の規制の中で何とか広
 島修学旅行が実施できることがわかり
 早速計画することにした。その中で、
 私は大きな二つの柱を立てた。一つは
 広島で話を聞くことにこだわろうとい
 うこと、もう一つはこのための事前
 学習として出来る限りのことをやろう
 ということである。

た。しかし、その頃、そのようなお話
 をなさっておられた方は皆無といつて
 もいい程であった。広島からも『その
 ような修学旅行は出来ない』という返
 事であった。そこで、東京の被爆者の
 人達や広島市の公園課の方々などのご
 協力を得て、約半年かかってやっと探
 し当て、お願いすることが出来た。私
 が被爆者(長崎)ということもあって、
 重い口を開いていただくことになった。
 修学旅行当日、いくつもの慰霊碑の
 前に来ていただいた亡くなった生徒達
 の母親の方々は、花をささげてお参り
 する生徒達の姿を見て『こんなことは
 碑を作って以来初めてのこと、亡く
 なった子供達が帰って来たようです』
 と涙をふいておられた。そして更に、
 胸をつまらせながらのお話に、生徒達
 は大きな衝撃と感銘を受けた。それ以
 後一二年続いている。そして今、この
 ような修学旅行が全国に広がっている。
 事前学習については、日常の学習活
 動の中でやらなければならぬ大切な
 ことがあるが、それがなされないまま
 終わっていることが極めて多い。例え
 ば、一五年戦争を中心とした近代史や
 核の問題にかかわる現代史などがそれ
 である。これらの貴重な一連の学習が
 広島修学旅行を設定することによって、

その事前学習ということ容易に取り
 組むことが出来るようになり、それが
 また広島修学旅行を更に意義あらしめ
 るものにするのである。

この学習の中に、当然、第五福竜丸
 のビキニ事件を重要な内容として取り
 入れ、これが東京に保存されていると
 いうこともあって、毎年のように見学
 し、修学旅行のたびに広島の中学生と
 交流を続けている生徒達は、夢の島で
 学んだ教訓を語り続けている。

昨年三月、私は定年までには少し間
 があつたが退職し、二つの事のために
 一年の半分を広島で過ごしている。そ
 の一つは、この一〇年ばかりの修学旅
 行で多くの方々に協力をいただき、
 そのおかげで感動的なものになったが、
 その方達も高齢になられた。特に、亡
 くなった中・女学生のご両親のうち、
 今も尚話し続けておられる方は極めて
 僅かで、その間に亡くなられた方や病
 床に伏された方は少なくない。これら
 の方々に、少しでも何かをしてあげな
 ければならないという気持ちからであ
 る。

そして、もう一つは被爆者やその遺
 族の方の思いや訴えをしつかり聞くよ
 うな修学旅行を実施して欲しいと願う
 からである。そのための呼び掛けや手
 伝いを、久保山愛吉さんや武藤宏一さ
 んや広田重道さんらの遺志を引き継ぎ
 ながら、今、広島でしている。

【連絡先】
 733 広島市西区己斐中1-10-10-14
 ☎ 082-273-3613

120 東京都足立区東綾瀬3-9-38-206
 ☎ 03-605-8050

※元上平井中学校教諭。現在、
 通信『ヒロシマ・ナガサキの
 修学旅行を手伝う会』を発行。

